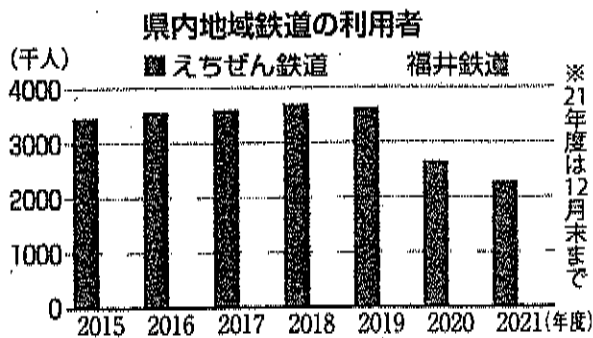


利用客 コロナ前届かず

昨年4~12月 前年比では15~18%増

福鉄

えち鉄



福井鉄道とえちぜん鉄道は三日、二〇二一年四月～十二月の利用者実績を公表した。福鉄は前年同期比で15・4%増、えち鉄は18・1%増だった。通勤・通学による定期利用者が回復して新型コロナウイルスの影響が小さくなってきたものの、観光目的など非日常の利用は伸びず感染拡大前には「割ほど届いていない」。

―関連の面―

福鉄福武線、えち鉄の両活性化連携協議会が福井市企業局庁舎であり、福鉄の村田治夫社長とえち鉄の山岸正裕社長がそれぞれ説明した。

福鉄の二二年四～十二月の利用者は百三十三万二千人。当初の年間目標は百七十五万六千人で、村田社長は「何とか達成したい」と話した。コロナ前の一九年同期比では13・7%減。し

えち鉄の二二年四～十二月の利用者は二百二十八万人だった。コロナ前の一九年同期比では19・1%減。

定期は5%減に持ち直しているものの、沿線に東尋坊や大本山永平寺などの観光地があるだけに、非日常の利用は42・7%減だった。山岸社長は「観光客を含む減少幅が大きく、全体の足を引っ張っている構図」と分析した。両鉄道とも二一年度は、緊急事態宣言に伴う休校の影響がなかった。十～十二月は感染状況が落ち着き、利用者が増加傾向にあった。一方、年明け以降は新変異株「オミクロン株」の急拡大により、利用減に転じる可能性がある。